



YCU PROFILE

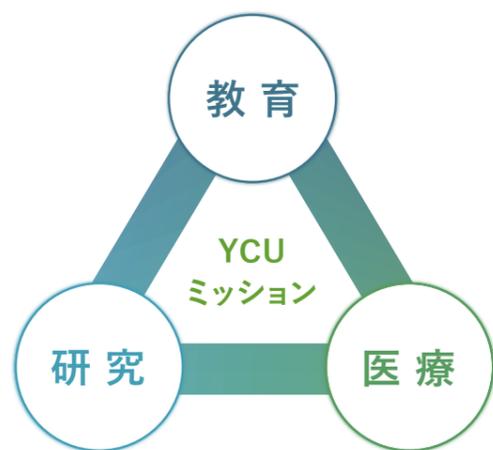


YOKOHAMA CITY UNIVERSITY

YCU ミッション

国際都市横浜と共に歩み、
教育・研究・医療分野をリードする役割を
果たすことをその使命とし、
社会の発展に寄与する市民の誇りとなる大学を目指す。

YCU MISSION



横浜市立大学は、YCUミッションに基づき、教育と研究の一体化を推進しながら、豊かな教養、豊かな人間性、倫理観を養う人間教育の場とし、「横浜から世界へ羽ばたく」人材育成と知の創生・発信に取り組みます。また、市民をはじめとする地域社会から、本学の教育・研究・医療が必要とされることを存在意義と考え、本学の魅力を一層高めつつ、学生・市民・社会に対して本学が有する知的・医療資源を積極的に還元します。

公立大学法人横浜市立大学
理事長 近野 真一



大学の存在意義を高め、広く国際社会に 貢献する大学・病院を目指す

少子化による大学全入時代突入や、グローバル化の進行により、大学が国内外の学生から「選ばれる」時代になりました。さらに、多くの大学が財政難という深刻な課題も抱えています。VUCAの時代と呼ばれる、不確実で変化が激しい現代社会では、今までのやり方にこだわることなく、柔軟に対応することが必要です。

2028年に設立100周年を迎える横浜市立大学は、常に未来を見据えて改革を進めてきました。伝統と革新のその先の未来に向かって、首都圏初のデータサイエンス学部の設置（2018年）、産学協働を目指したみなとみらいサテライトキャンパスの開設（2020年）、企業・学内外の研究者支援の窓口となる共創イノベーションセンターの設置（2024年）など、さまざま取り組みを実行してきました。現在は、「医学部・病院等再整備基本計画」の検討を進めるとともに、自律的かつ持続可能な法人経営の実現に向けた改革に取り組んでいます。

地域の皆さま、市民の皆さまをはじめ、多くの方々と共に歩み、選ばれる大学・病院となるよう、これからも努めてまいります。皆さまのお力添えを引き続き賜りますよう、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

時代が求める教育及び研究に応える DIGITAL、MEDICAL、GLOBAL

横浜市立大学は、創立以降、横浜の地から日本、そして世界をリードするような人材を輩出すべく取り組んでいます。

今は「不確実の時代」と言われ、膨大な情報の中で、さまざまなものが大きく、そして激しく変革する時代です。AI技術が大きく進化したデジタル時代では、本学が他に先駆けて取り組んでいるデータサイエンスの視点が非常に重要となってきます。

また、あらゆる分野でグローバル化が一層進んでいます。本学はグローバル教育を重視し、海外で学び、実践するためのプログラムを揃えており、学生が世界へ踏み出す環境を整えています。

コンパクトなサイズが強みである本学は、少人数による教育に組み、学生と教職員との距離感が近いことが大きな特長です。また、世界に誇る研究力も本学の強みであり、独創的・先端的な研究を数々発信し続けると共に、領域横断的に新たな価値を創出し社会のイノベーションにつながる研究にも取り組んでいます。

これからの時代を担う人材を育成・輩出し、世界を牽引する研究成果を引き続き発信し、世界を、そして横浜市をリードする大学を目指してまいります。あわせて、研究に裏付けられた高水準の医療で、横浜市民をはじめとする多くの方々の健康と生活を、これからも守り続けてまいります。

横浜市立大学
学長 石川 義弘



THE HISTORY OF YOKOHAMA CITY UNIVERSITY

ヨコハマと歩む

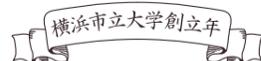
横浜市立大学の歴史は古く、1882（明治15）年に設立された横浜商法学校まで遡ります。明治の早い時期に商業学校が設立されたのは、横浜が当時の日本における第一の貿易港であり、国際商業都市であったことによります。その後、1928（昭和3）年に設立した横浜市立横浜商業専門学校（Y専）となり、1944（昭和19）年設立の横浜市立医学専門学校、後の横浜医科大学と統合し、横浜市立大学としてその歴史と伝統を育んできました。以来、開国・開港の地、横浜にふさわしく、開放的で国際性、進取性に富む学風は、横浜市立大学の伝統として今も受け継がれ、実践力のある数多くの優れた人材を輩出しています。



当時の学生たち



横浜市立経済専門学校



横浜市立大学創立年

1944



学生生活も戦時色が濃くなる
1944年卒業アルバムより



YCCCの学生たち



横浜市立大学校章

PICK UP

伊藤雅俊奨学金制度

本制度は、故伊藤雅俊様（株式会社セブン&アイ・ホールディングス名誉会長、本学卒業生）から頂戴したご寄附をもとに創設した制度です。前年度の成績をもとに、国際商学部の各学年（2年次以上）より選出された極めて優秀な学生に授与しています。



1957



金沢八景キャンパスに新校舎設立

1987



1987年 医学部が福浦キャンパスに移転

2018



2018年4月 首都圏初の
データサイエンス学部誕生



伝統と革新の、その先へ
1928 - 2028

横浜市立大学は
2028年に
創立百周年を迎えます

1882 1888 1917 1928 1944 1949 1952 1984 1995 2001 2005 2018 2019

1882 横浜商法学校（Y校）設立
1888 横浜商業学校に改称
1917 横浜市立横浜商業学校に改称
1928 横浜市立横浜商業専門学校（Y専）設立
1944 横浜市立経済専門学校に改称
1949 新制大学として横浜市立大学設立（商学部）
1952 3学部となる（商・文理・医）
1984 木原生物学研究所設立
1995 文理学部を改組国際文化学部・理学部設置
2001 鶴見キャンパス設置
2005 公立大学法人横浜市立大学発足
2018 データサイエンス学部設置
2019 国際教養学部・国際商学部・理学部設置

1871 1872 1874 1891

1871 横浜仮病院設立
1872 横浜中病院開院後に横浜共立病院に改称
1874 神奈川県に移管、県立十全医院に改称
1891 横浜市に移管、横浜市十全医院に改称

1871年、早矢仕有的が「仮病院」を開設



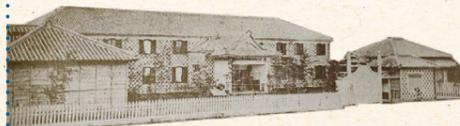
早矢仕 有的
(1837-1901)

Duane B. Simmons
(1834-1889)

米国人宣教師兼医師として来日。仮病院では週1回診療をし、1880年まで十全医院の中心となって活躍した。

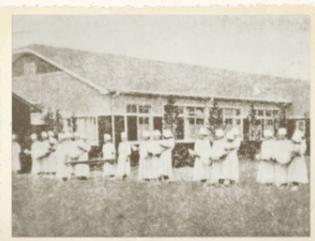


1874



開院当初の十全病院

1924



1924年 大震災後の仮病院

1958



1958年頃の横浜市立大学
医学部病院（浦舟）

1991 2000 2005

1991 医学部附属病院開院
2000 医学部附属市民総合医療センターに改称
2005 附属病院に改称

医学部附属浦舟病院に改称
医学部附属市民総合医療センターに改称

2005 附属市民総合医療センターに改称



2000年代初頭の附属病院

2028

1928年に設立された「横浜市立横浜商業専門学校」—通称「Y専」を起源とする横浜市立大学はもうすぐ100周年。さまざまな記念事業プロジェクトやイベントを通じて皆さまとともに祝い、感謝を伝え、これからの100年の発展を誓います。

新たな社会の創造をリードし、 未来を拓く横浜市立大学へ

*Digital,
Medical,
Global*

横浜市立大学は、「横浜から世界へ羽ばたく」人材育成と、世界とつながる「知の拠点」として世界水準の研究を進めます。県内唯一の公立大学医学部・附属病院として、最先端の医学研究に取り組むとともに、市民の健康と命を支える「最後の砦」としての機能を果たし続けます。

地域の中核となる大学

「知の拠点」である大学だからこそその強みを活かし、地域・社会と連携し、課題解決をリードする

研究の横浜市立大学

強みや特色のある研究を核に研究成果の社会実装を推進するとともに、社会の要請や変化に柔軟に対応し最大限のパフォーマンスを発揮する



金沢八景キャンパス

コンパクトにまとまったキャンパスには、国際教養学部・国際商学部・理学部・データサイエンス学部・医学部（1年次）の学生たちが集います。

CAMPUS



福浦キャンパス

大学附属病院に隣接する、医療現場に近い医学部のキャンパスです。



舞岡キャンパス
木原生物学研究所

理学部・生命ナノシステム科学研究科の学生が、最先端の植物科学研究を行います。



鶴見キャンパス

理学部・生命医科学研究科の学生が、世界トップレベルの研究設備で学修、研究を行っています。隣接する理化学研究所とも連携しています。



みなとみらい
サテライトキャンパス

データサイエンス研究科をはじめとする大学院教育や、社会人教育拠点としてリカレント教育も展開しています。

現代のトレンドを網羅した 5学部 6学科・6研究科・2病院を有する中規模総合大学

YOKOHAMA CITY UNIVERSITY



HOSPITAL

横浜市立大学附属病院 671床

横浜市唯一の特定機能病院。高度医療の提供、高度医療技術等の開発、臨床研究、医療人材育成を担う。

横浜市立大学附属市民総合医療センター 696床

大学病院初の地域医療支援病院。横浜市内唯一の高度救命救急センターを擁する地域医療最後の砦。



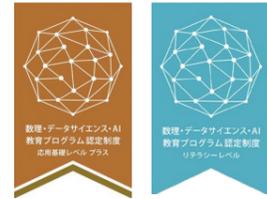
横浜から世界へ羽ばたく人材育成

新しい社会が必要とする人材を育成し、高度な専門性、豊かな教養、グローバルな視点、データ思考、課題発見・解決力を身に付けていきます。

PICK UP

AI Data Science Education Program for Tomorrow

ADEPTプログラム(AI Data Science Education Program for Tomorrow)は、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に認定。データサイエンス学部の学生を対象とした「データサイエンス人材育成プログラム」は、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)プラス」に認定。



学部教育の特長

グローバル教育

文理横断的な教育

データ思考

世界を変えろ、
世界初を生み出す
「ゲームチェンジャー」を
横浜の地から輩出する

少人数制教育で
きめ細かな指導

充実した
研究指導と専門教育

YCUの学部教育は、教養教育、グローバル教育、地域での学び、そして専門教育を柱に展開していきます。これらにより高めた総合力を、それぞれの専門教育において応用・深化させていく、そんな体系的な教育プログラムがYCUにはあります。



Q. 4年間を通じた本学の教育に満足しましたか?.....

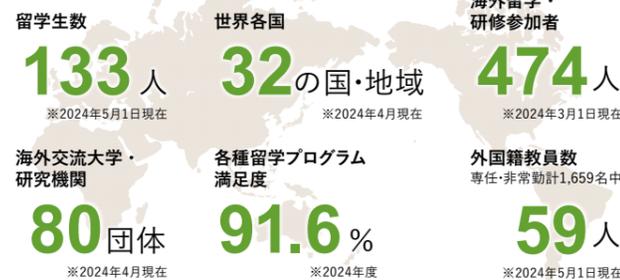
学生満足度 **88.7%**

※2023年度カリキュラム評価より

グローバル教育 ~キャンパスで体験する/海外で学ぶ~

世界各国の大学・研究所等と国際的な交流を推進するYCUでは、語学力を培う場として、キャンパス内では英語で学ぶ科目を120科目以上開講したり、海外学生を受け入れ共に研究活動やグループワークを行ったりと、さまざまな機会を用意しています。さらに学びの実践として、短期留学、長期留学、交換留学、海外フィールドワーク支援プログラム等があり、毎年多くの学生が世界の各地で国際性を磨きながら成長しています。

国際交流実績



グローバル人材育成のためのYCUの語学教育体系

<p>Practical English Center 個別カウンセリングや学生のケアを行います。</p>	<p>専門科目・全学開放科目</p> <p>専門科目を英語で学ぶことで、実践・ビジネスに強い英語力を強化</p>
	<p>共通教養科目</p> <p>PE、APEで培った英語力を生かす 多文化交流ゼミでは、使用言語はすべて英語</p> <p>TOEFL 600</p>
	<p>Advanced Practical English</p> <p>レベル別、目的別にクラス分け、さらに英語力を伸ばす。 初習外国語(中国語、韓国語・朝鮮語、ドイツ語、フランス語、スペイン語)</p> <p>TOEFL 500-550 レベル</p>
	<p>Practical English</p> <p>リベラルアーツ教育を学ぶために必要な実践的な英語力を身につける</p> <p>必修 TOEFL 500</p>

データサイエンス技術を社会課題の発見・解決に活用できる人材の輩出

2018年4月、首都圏初のデータサイエンス学部を開設。2020年4月には大学院データサイエンス研究科データサイエンス専攻およびヘルスデータサイエンス専攻の2専攻を開設。学部・大学院の教育を通じて、体系的に学んだデータサイエンス技術と社会課題に取り組む力を備えた人材を育成します。

実社会におけるデータサイエンス活用の事例や解決に向けた一連の流れを学習するため、1年次から企業等と連携したPBLプログラムを実施しています。



YCUのキャリア・就職支援 キャリアサポーター制度

サポーターとして登録している3,500名以上の卒業生から、職場の雰囲気や仕事内容、就職活動でのエピソード等、会社説明会等では得られない話を聞くことができます。



毎年開催している「キャリアサポーターと学生の集い」

医学部 高い国家試験合格率



知の創生・発信

独創的かつ革新的研究、分野融合型研究によるイノベーションの創出、世界と繋がる「知の拠点」としての連携構築しています

PICK UP

産官学共創オープンイノベーション研究施設の開設

2023年4月に文部科学省「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」に採択されました。企業や研究者がワンフロアに集結する産学官連携の研究拠点スペースに加え、メタバースラボ、オープンイノベーションラボを配置し、「メンタルヘルス研究領域」を中心にイノベーションの創出と社会実装の加速を目指します。

2025年4月
竣工予定



木原生物学研究所

附置研究所

当研究所では、理化学研究所等と連携し、ゲノム科学や遺伝学、バイオインフォマティクスやケミカルバイオロジーなど幅広い分野の最先端植物科学研究を通して、持続可能な社会への貢献を目指しています。



先端医科学研究センター

附置研究所

福浦キャンパスに設置された当センターでは、がん、生活習慣病などの克服を目指した基礎研究と、その成果を臨床に応用する橋渡し研究(トランスレーショナル・リサーチ)を推進しています。

トランスレーショナル・リサーチ体制



次世代臨床研究センター

研究支援ファシリティ

Y-NEXTでは、臨床試験関連の法令に精通した医師、薬剤師、看護師、事務職員など多職種がそれぞれの専門性と知識を活かして、研究者が臨床試験をスムーズに遂行できるよう多角的な支援を行い、臨床試験の推進に努めています。



共創イノベーションセンター

研究支援ファシリティ

横浜・神奈川から世界へ、未来へ。一人ひとり輝くウェルビーイングを共に叶えることを目指して

本学の産学連携研究のさらなる発展と社会実装に向けた中心的な役割を担う新しい産学官民連携、オープンイノベーションを推進する組織として、2024年4月にYCU共創イノベーションセンターを新設。多様なステークホルダーと共に、社会アジェンダ(社会課題・テーマ)の解決・実現を目指します。



留目 真伸 センター長



医学、基礎生命科学、植物科学を中心に、世界の注目を集める

研究成果を数々発信しています



種の壁を乗り越える次世代育種技術の開発へ／木原生物学研究所

植物の種の障壁の仕組みを解明し、異種間の自由な交雑を可能にする次世代育種技術の開発を目指す。これまでに例のない新品種を作出し、気候変動に伴う地球規模課題の解決に貢献する。

卵巣明細胞がんの新規診断マーカーの開発

卵巣明細胞がんの細胞が作り出す「TFPI2」というタンパク質に注目し、卵巣がんの検査における新規血清バイオマーカーとして開発。共同研究機関の東ソー株式会社が体外診断用医薬品(保険収載済)としてTFPI2測定試薬の販売を開始。海外展開も予定。

Eテスト「TOSOH」II (TFPI2) 免疫反応試薬

JAXAと共同研究／先端医科学研究センター

宇宙飛行士の血清から、長期宇宙滞在ミッションに伴うヒト血清プロテオーム変化を解明した。宇宙飛行士の健康リスク増加を予測できる客観的指標の発見に貢献することが期待される。

ワニのヘモグロビンのもつ特徴的なアロステリック制御のしくみを解明

ワニはなぜ長時間潜水しても酸素を供給できるのか、クライオ電子顕微鏡を用いてワニのヘモグロビンの立体構造を明らかにし、ワニ独特なしくみを解明。将来的な医療応用が期待される。

デオキシ型ワニヘモグロビン

子育て世代の時間貧困解消と男女共同参画をめざした産学官共創ラボを設立

YCU文理融合研究に携わる研究者が中心となって、横浜市の関連部署や企業、NPOとともに社会課題解決と社会実装を目指した共同研究を推進し、情報共有と共創によって、新たなイノベーションを創出する。

山火事により発生するガス状有害物質の放出量は「燃烧温度」の影響が大きいことを発見

山火事で発生する有害物質(VOC)の種類と量は、燃烧温度による影響が大きいことを明らかにし、これにより山火事に由来するVOCの発生量を予測することができる。

若者の生きづらさを解消し高いウェルビーイングを実現するメタケアシティ共創拠点

2022年10月に科学技術振興機構(JST)「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」共創分野本格型に採択され、「若者の生きづらさ」や「心の不調」に対して、心理的レジリエンスの獲得を促すコンテンツを現実およびバーチャル空間で提供し、若者のウェルビーイング向上への取り組みを行うプロジェクトを実施。

Minds1020Lab

メタバース診療所

横浜市教育委員会と共同研究契約を締結し、全国最大規模の教育ビッグデータを活用した的確なケアシステムを開発(横浜教育データサイエンス・ラボ)

知的・医療資源の還元

県内唯一の公立大学医学部および2つの附属病院として、全国から多数の入局希望者を受け入れ、医療人材を育成し、地域に輩出。地域医療を支えています。

YOKOHAMA CITY UNIVERSITY HOSPITAL



附属病院

横浜市内唯一の特定機能病院

当院は、横浜市内唯一の特定機能病院として、高度急性期医療の強化に務め、先端的な医療を積極的に導入しています。

複数の医療機関を支援する遠隔ICUシステム



複数の病院の医療情報をネットワーク通信でつなぎ、医師等が患者さんをモニタリングし、遠隔で現場の医師等に助言します。2024年現在、同院含め4病院を支援。導入を検討している病院もあります。

がんゲノム医療拠点病院に指定



2023年4月より、厚生労働省の「がんゲノム医療拠点病院」に指定されました。豊富な経験を活かし、今後も、がんゲノム医療を推進していきます。

YCU横浜早期肺癌診断プロジェクト



横浜市や横浜市医師会と連携し、かかりつけ医師を通じて精密画像診断を推進し、肺がんの切除率を向上させます。

臨床研究を支える組織



2015年4月に設立した次世代臨床研究センターには、専門的な数多くのプロフェッショナルが在籍し、附属2病院を中心とした学内外で培われたさまざまなシーズや臨床現場でのアイデアの実用化、先進的な医療を開発するための臨床研究を支援しています。

Y-NEXTの
Mission
& Vision

ミッション

「次世代の治療」を「あたり前の治療」として確立するための架け橋

01

適正かつ高品質な臨床研究実施への支援

ビジョン

02 臨床研究に関わる全ての人々の教育への寄与



横浜臨床研究ネットワーク

研究活性化の取り組みの一環として、横浜を中心とした15の医療機関によって構成されたNWを構築し、治験を含む臨床研究の推進を目指しています。

PICK UP

地域医療を支える医師派遣

常勤医派遣数 **2,099**名
●横浜市内 1,102名
●横浜市内(県内) 818名
●神奈川県外 179名
派遣病院数 **175**院

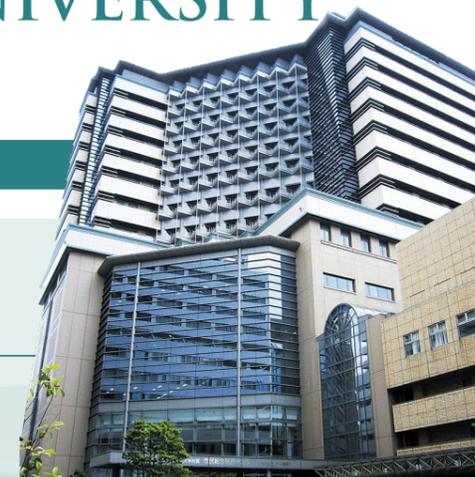
非常勤医派遣数 **1,406**名
●横浜市内 814名
●横浜市内(県内) 546名
●神奈川県外 46名
派遣病院数 **273**院
(2024年4月時点)

YOKOHAMA CITY UNIVERSITY MEDICAL CENTER

市民総合医療センター

2007年9月、大学病院として全国初の「地域医療支援病院」に認定

かかりつけ医を支援し、救急医療など地域医療の中心的な役割を担う「地域医療支援病院」として認定されました。



災害拠点病院



地域の医療機関を支援する機能を有し、重症・重篤な傷病者を受け入れるなど、災害時の医療救護活動において、中心的な役割を担う病院として位置づけられています。

横浜市内唯一の高度救命救急センター



当センターは、横浜市唯一の高度救命救急センターを擁し、地域の救急医療の「最後の砦」として、特に高度な医療を必要とする重篤な救急患者さんの受け入れを24時間体制で行っています。

がん診療の取り組み



当院は、地域がん診療連携拠点病院に指定されており、日本人に多い5大がんを中心に、質の高いがん医療の提供に務めています。

医学部・病院等再整備事業

医学部および附属2病院は、高度で先進的な医療の提供、医療人材の育成・輩出、最先端の医学研究の推進など、さまざまな役割を果たしています。施設の老朽化・狭隘化が進む中、医療を取り巻く環境の変化へ適切に対応し、引き続き、市民の健康と命を支える「最後の砦」の存在としてあり続けるため、築30年を超える医学部・病院等の再整備の検討を横浜市と共に進めています。



ヨコハマをフィールドに、 地域とともに育つ

地域社会が抱える課題を発掘し、学生と教員が地域の人々と一緒に解決することで、地域に貢献し、課題解決力のある人材を育成することに取り組んでいます。

PICK UP

地域貢献センター長から

横浜市立大学 地域貢献センター長 三輪 律江

近年、複雑化する社会においては、多様な主体がお互いに連携しながら社会の質を高め、生活や社会の構造をより良くしていくことが求められています。このような社会からの要請を受けて、大学も研究・教育とともに「地域貢献」を一つの使命とするようになりました。

地域貢献センターでは、本学の「知」と地域の皆さまをつなげる窓口として、研究・教育と一体となった双方向による地域連携を目指します。今後も地域とともに学び、市民に貢献する大学として取り組んで参ります。



地域貢献センターについて

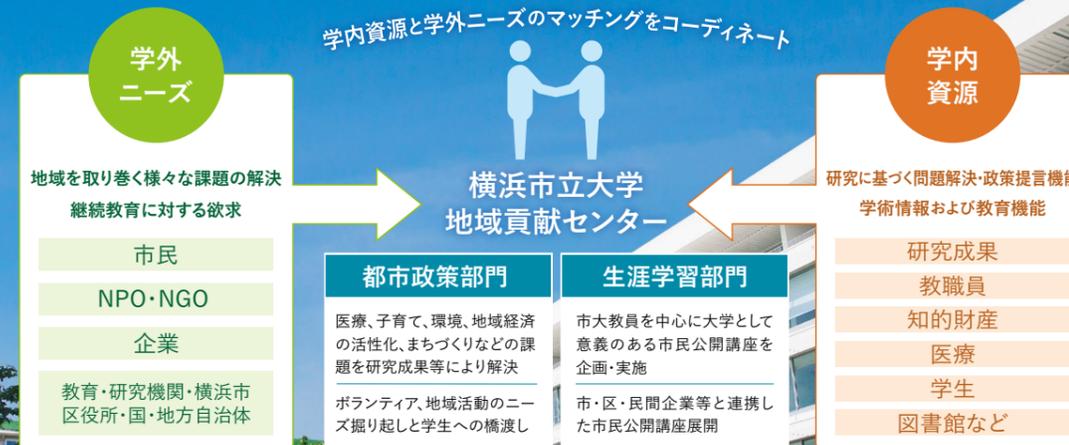
地域貢献センターは、地域の団体・企業・行政等の皆さまからのご相談を、本学内の資源とマッチングする窓口です。

また、本センターは、地域課題解決に向けた研究事業や、知の還元による市民の生涯学習支援（エクステンション講座の実施）、学生のボランティア支援を主な役割とし、大学と地域との連携推進に取り組んでいます。

年間講座数
99件

受講者数
7,003名

2023年度実績



地域とともに課題解決をめざす研究事業

「まち保育」の観点から取り組む保育・教育施設の共助構築に向けた検討・実践



横浜市立大学と神奈川区役所が協働で、三輪教授が提唱する「まち保育」の考え方を理解し適用しようとする「まち保育を通じた保育・教育施設の地域連携の在り方」についての勉強会や「共助力強化ワークショップ」の開催、神奈川区内の施設への定期的な伴走支援を通して、保育・教育施設の「防災力」を高める取り組みを実施しました。(2019～2021年度)

能登半島地震の応急対応・被災者支援の取り組みと課題を反映させた横浜型事前復興まちづくりの推進



2021年から本事業で継続している横浜型事前復興まちづくりの成果を活かし、横浜市や三浦市等で行政やまちづくり協議会と連携して、事前復興まちづくりの推進のための課題の整理や住民へのアンケート調査を行います。能登の復興に着目しつつ、多く地域の住民が活用できるような事前復興の普及啓発資料の作成や、教材等の開発も進めます。(2024年度)

未来につなぐ持続可能な街を目指したファンづくり：領域横断的アプローチによる地域連携の実証研究



横浜中華街を対象として、持続可能な街づくりを目指した多面的な「ファンづくり」のあり方を検討し、実証研究を行います。国際商学部、国際教養学部の2ゼミでチームを組み、マーケティング論、観光学、消費者行動論、地理学による領域横断的な研究体制を構築、さらに横浜中華街発展会協同組合と連携して取り組みます。地域との連携および領域横断的アプローチによる相乗効果とソーシャル・イノベーション創出の機会となることが見込まれます。(2024年度)

学生の自主的なボランティア活動

2023年度実績

派遣数
791名

依頼数
195件

ボランティア支援室とは

学生の「地域に貢献したい」という意欲や、地域での主体的な学びをサポートするため、学生の活動希望と地域からの要請のコーディネート、ボランティア情報の収集と発信、また初めてボランティアに参加する学生が安心・安全に活動できるようサポートを行うなど、地域社会でのボランティアを通じて成長する学生の側面的支援を行っています。

ボランティア支援室主催の協働プロジェクト

海洋ゴミ問題やリサイクルを通して「環境を守る活動」

■学生団体「Clover(シーラバー=sea+lover)」



海洋プラスチックゴミを減少させ海洋環境を改善させるために、株式会社シードと協働して、キャンパス内で使い捨てコンタクトレンズの空ケース(プリスター)の回収活動などを行っています。

フードロス削減に向けた「食のサイクル活動」



フードロス削減のため公益社団法人フードバンクかながわなどから賞味期限間近の食品等を引き取り学生に配布する一方、学生のフードドライブ活動などを支援し「食のサイクル活動」を進めています。

学生ボランティア団体のサポート

医学部があるYCUならではのボランティア活動

■学生団体「one by ONE」「Hair for Children」「医学部YDC」「東洋医学研究会」等



本学では医学部系ボランティア団体の活動も活発です。ボランティア支援室では、団体の活動を活動資金面や、補助金・助成金情報の提供、イベント等の周知などでサポートしています。



ひらく×つなぐ =かがやくYCU

横浜市立大学の歴史には、時代を駆け抜けた人々の想いがあります。
商学の発展のために、医療の発展のために、力を尽くした先人たちがいます。
時代をも越える英知を持ち、賢明に時代をリードしてきた人々。
わたしたちは歴史の一途をたどりながら、先人の功績に感謝し、
そして世界を目指し、時代の先へと向かって歩き続けます。
未来をひらき、それによりこれまでの100年をこれからの100年につないでいくことで、
みんなが輝くYCUでありたいという想いととも。

記念事業プロジェクト

100周年を迎える2028年までの間、YCU Vision 100を推進する4つのプロジェクトを展開します。



教育

ビジネス人材育成・
留学支援プロジェクト



研究

新たな研究創生
プロジェクト



環境整備

学生生活・環境改善
プロジェクト



再整備

医学部・病院再整備
プロジェクト

YCU100 募金へのご支援のお願い

YCU Vision 100の実現を目指し世界で活躍する優れた人材の育成や新たな研究創生、キャンパス環境整備を推進するため「YCU100募金」を設置しました。皆さまのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

- 一口あたりの金額は定めておりません。
- インターネットからお申込みいただけます。
- 税制上の優遇措置や手続きについてはWebサイトをご覧ください。
- 詳しくは大学Webサイトまたはリーフレットをご覧ください。

寄附の目的

- 00 大学一任 (YCU Vision 100を達成するため活用)
- 01 ビジネス人材育成・留学支援プロジェクト
- 02 新たな研究創生プロジェクト
- 03 学生生活・環境改善プロジェクト
- 04 医学部・病院再整備プロジェクト



ご寄附のお願い



税制上の優遇措置の詳細